



学校だより

# たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和 3年 9月24日

## 自らの姿・前向きな気持ちを大切に

校長 菅原 透



中秋の名月は8年ぶりに満月となりました。見事な姿をご覧になられた方も多いことでしょう。見逃された方は、来年、再来年も見られるはずですので、お忘れなく、美しい自然美をご堪能ください。

ついこの間まで水の中で歓声を上げていた子ども達。今月は、運動会に向けて力を出し、力をつけ、まとまりを強めました。“子どもは可能性の塊”と言われますが、磨けば光るの如く、切磋琢磨し、伸び続けている姿に感動を覚えます。

さて、9月3日に第2回学校運営協議会が行われました。今年度から白鷹町が導入した制度で、運営方針をともに考え教育活動等とともに行う機関となります。今回は、1学期学校評価やあいうえお名人について話し合いが持たれました。

是非紹介したいことが三つ。

一つめは、「子どもにしている『あいさつをがんばっているか』との問いを、大人にしたらどうなるか」ということです。ドキッとしました。私は、職業柄（もとからかもしれません）大きな声と笑顔であいさつする機会が多いのですが、投げかけたあいさつは返ってくるものの、そうでない場合はあいさつの“交歓”といかないケースがあるからです。大人が率先して、あいさつの模範を子どもに見せたいもの。“子どもは言うように育たない。しているように育つ”と言われます。自分の生活を充実させ、未来を担う子どもへしっかり示すためにも、あいさつのレベルを“もう一点”上げてみませんか。

二つめは、あいうえお名人について、「コミセンも取り組んだらどうか」との案が出たことです。学校のめざす姿を地域も共有し、ともに取り組もうとする…。何とすばらしいことでしょう。あいさつ、いい姿勢、うたごえ、えんぴつ、おもいやり。自分が心地よく、また、仲間と親しく生活するのに、“あいうえお”は大事な要素になります。子どもも大人も温かく生きる、温かな地域になればいい…。子どもの育成を切り込み口に、地域の活性も図られれば、すごいことです。

三つめは、「協議会をもう1回やろう」と提案されたことです。3回目は年度末の予定でしたが、前述の動きを検証するために加えてもう1回開催するとの前向きなお考えです。始まったばかりの協議会で、学校と地域でともに子どもを育てる道が拓かれつつあることに感心しきり。人が集うことの少なくなっている昨今、集まること、話し合うことの意義を再確認しつつ、それが人の意欲とか地域の勢いになるのだと実感いたしました。荒砥小学校区の皆様は、地域挙げて子どもを育ててくださっています。本当に、ありがとうございます。

右の写真は、この度、テントを寄贈くださった大滝いせ氏と沼澤教育長様とのもの。地域・町挙げて支えてくださる幸せにお応えできるよう、今後も精励いたします。

